

教育プログラムの概要及び採択理由

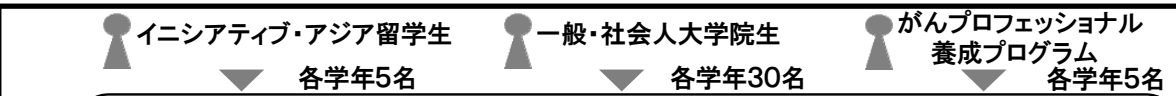
機	関	名	産業医科大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称			国際産業医学研究者育成教育イノベーション		
主たる研究科・専攻名			医学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)					
取組実施担当者			(代表者) 河野 公俊		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本学は産業医の養成と産業医学研究を目的に設立された世界でも稀有な大学である。働く人々の健康を科学し、その増進と活力創出を目指す科学研究を追究している。本学は、地理的にアジア地域に隣接する特質を生かしていることから、平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に応募し「アジア国際産業医学研究者養成プログラム」が採択された。新しい大学院の留学生支援制度を基盤に講座の経済支援も仰ぎ、新たに毎年5名以内でアジア各国の連携校から産業医学研究に関心のある留学生を公募し、本プログラムに日本人学生とともに参加させ競争的環境のもと、大学院研究の充実化と国際化をはかり、将来的に本学出身研究者を中心とした国際的に通用するアジア地域の産業医学研究ネットワークの構築をすすめている。現在9名の留学生が本プログラムに参加している。近年、より統合的かつ国際的な視点からの大学院教育の重要性がクローズアップされ国際的な産業医学研究を推進できる人材育成は急務と考えられる。そこで、アジア以外の国からも留学生を受け入れることにより、国際化した大学院教育の実質化を行うことを目的としたい。</p> <p>1 ポーダレス化・多様化・複雑化する企業活動に対応した新世代産業医学の再構築</p> <p>急速なグローバル化の影響は産業経済の担い手たる勤労者の健康問題に様々な影を落としていく。途上国では劣悪環境による外傷や中毒等の職業病が蔓延する一方、糖尿病や動脈硬化性疾患等、先進国特有の問題を合わせ持つ二重負担が生じている。他方、わが国でうつ病等メンタルヘルスやメタボリック症候群が喫緊の課題となる中、先進国共通の課題として、がん等の生活習慣病、勤労層の高齢化、喘息等アレルギー性疾患、また環境関連としてナノ物質や内分泌攪乱化学物質等の生体/健康影響など多用な問題に対応可能な人材育成のための大学院教育が求められている。メキシコから世界へ瞬く間に拡大した新型インフルエンザは、グローバル企業はもちろん国内企業でも勤労者の健康確保の重要性を再認識させる契機となった。このように勤労者の健康上の課題は企業活動とともに加速度的に多様化・複雑化・ポーダレス化している。よって新世代の産業医学研究者は、グローバルな視点からの勤労者健康確保と増進に資する実践的解決策を探求する必要がある。</p> <p>2 勤労者の健康確保を核とする臨床医学・基礎医学・社会医学の融合化</p> <p>かかる課題の効果的解決には、既存の医学部や医科大学に特有の臨床医学/基礎医学/社会医学の固定的枠組みに代わる、融合的かつ機動的連携を積極推進できる体制を構築する必要がある。そこで新世代産業医学の目標を「勤労者の健康確保」と明示し、既存各分野の人材が協調分担すべき役割を産業医学(狭義)/産業医療/産業保健と再定義し、分野横断型の共同研究を推進する。すなわち融合型研究基盤の上に融合型大学院教育の基盤を構築する。その為に以下の3つのアクションプランで大学院教育の充実をはかる。</p> <p>(1) アドバイザリーボード制度(複数指導体制、外国人指導、産業衛生教授の招聘)の導入</p> <p>複数教官による指導体制としてアドバイザリーボードを創設する。初めにボードメンバーを登録するシステムを構築し、特に外国人研究者を必ず1名含む、1~2名の研究アドバイザリーを副指導教官に指名する。経歴等の学内審査により産業衛生教授として任用する。講義は英語による少人数教育システムを基本に実施し、ボードメンバーを4年間研究進捗セミナーに参加させる。他方、選抜されたボードメンバー(1年:5名程度)による系共通講義カリキュラム等を編成し、全員参加による教育も行う。この場合教官に対してもFDとして参加を義務づける。さらに、海外連携校の教官から選抜した海外研究アドバイザリーボードを創設し、プログラム監査や試験委員等を委任する。</p> <p>(2) 国際感覚育成プログラム</p> <p>産業界での実践に必要なグローバルコミュニケーション能力向上を目指した医学英語教育プログラム(医英検を活用)をメインとし、さらにJICA支援の国際遠隔講義プログラムを発展させ、大学院独自で充実した国際遠隔講義の実施を目指す。その中で産業界が抱える産業医学分野の国際的テーマを柔軟に取り組み参加発表型講義を備える。海外連携校アドバイザリーに協力依頼し、学生主導による海外連携校での産業医学分野の講義受講。学生交流を含めた海外産業医学研修を実施する。</p> <p>(3) トランスレーショナル研究を通じた大学院教育</p> <p>海外連携校と本学とのトランスレーショナル共同研究プロジェクトの推進を図るためには、連携研究マッチングシステムを構築する。具体的には、学内教員の海外研修を積極的に進め産業医学との関連分野の情報を増やし、リサーチアドミニストレーターが情報集約し、プレゼンテーション可能な研究情報などを作成。それとともに、サイエンスコーディネーターが学生参加のもとで、海外連携校の教官、特にアドバイザリーボードに招聘した産業衛生教授の研究内容とマッチングして、新しい産業医学研究テーマの提案等を行い、学生が協調して参加しやすい研究パイプラインの構築を目指す。</p> <p>以上、国際的視点と共に、協調スキルと研究マインドを兼ね備えた産業医学研究者の育成を目指す。</p>					

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

国際産業医学研究者育成教育イノベーション

教育プログラム進化に向けた支援体制の整備と評価実施

プログラム支援体制	トランスレーショナル研究支援体制	プログラム評価
学内制度:リサーチアドミニストレーター :サイエンスコーディネーター 産業保健、産業医学、産業医療分野から 各1名を選出	研究費対応:傾斜配分研究費と 学内研究助成からの支援強化 FD強化への対応: 教官の研究マインドの刺激	学外アドバイザー 海外アドバイザー リサーチアドミニストレーター サイエンスコーディネーター による評価の実施



【既存プログラムとしての実績】

- 留学生の経済支援制度の充実
- がんプロフェッショナルカリキュラムの充実

1・2年

HSB教育プログラム (英語講義) | PBE教育プログラム (プリベンティブバイオエビデンス) | がんプロフェッショナルプログラム

連携

3・4年

アドバイザーボード制度(学内/学外/海外)

学内/学外研究アドバイザー | 海外研究アドバイザー
 学内/学外/外国人 | 海外連携校の教官から選抜
 大学院生

国際感覚育成プログラム

- 国際遠隔講義プログラム
 - 国際産業医学上での必要テーマ取上げ
 - 発表重視の講義・JICA依存低い運営
- 海外連携校での産業医学研修
 - アドバイザーボードを活用し、学生主導で学生交流システムを構築
- 医学英語教育プログラム
 - 国際的なコミュニケーション基礎力の養成
 - 合同集中講義(英語)・医英検資格取得

トランスレーショナル研究(国際産業医学研究)

- リサーチアドミニストレーター・サイエンスコーディネーターによる本学と海外連携校の産業医学研究情報集約
- 国際共同研究プロジェクトの海外連携校との連携マッチングシステムと学生参加型研究パイプラインの構築

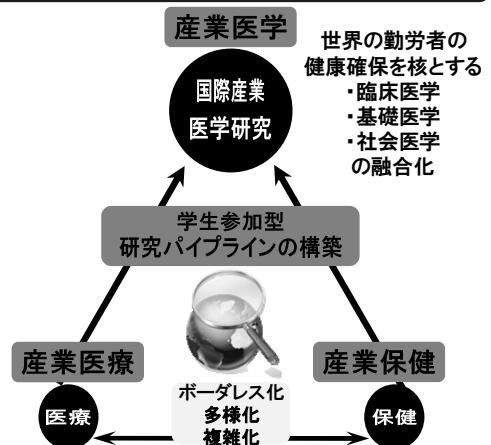
基盤作り
 既存プログラム
 新教育プログラム

論文作成・学位授与

国際的な産業医学上の課題解決を担える研究者の育成

制度・プログラムの効果予測	人材育成			知の創造	
	英語教育	応募者拡大	国際的視点	応用力アップ	学際知
アドバイザーボード	◎	◎	◎	◎	◎
トランスレーショナル研究	◎	◎	◎	◎	◎
国際遠隔講義プログラム	◎	○	◎	○	◎
海外連携校での産業医学研修	◎	◎	◎	△	△
医学英語教育プログラム	◎	—	◎	—	○

◎:非常に効果大 ○:効果大 △:効果あり —:該当せず



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では「労働環境と健康に関する分野における医学の進展と社会福祉の向上」を目指しており、それに沿って国際感覚育成プログラムとしての国際遠隔講義などの体系的な指導教育体制が編成され、学内外から構成される研究アドバイザー制度などの学生支援体制も充実している点は高く評価できる。

教育プログラムは、大学院生の国際化を目指すプログラムとなっており、海外連携校から参加する外国人の研究アドバイザー、学内教員で構成するリサーチアドミニストレーターおよびサイエンスコーディネーターを含む充実した研究指導支援体制が整備されている点は優れている。さらに、海外留学生を含む学生に対する支援システムも充実している。本教育プログラムは、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業の成果も活用し、綿密に計画されており、実現性・実効性も期待できる。ただし、学生への経済支援については、支援期間終了後の継続性を明確にするなど、今後の対応に期待したい。